

本当はもつとよくなるニッポンの未来

アシスト代表取締役会長 ビル・トッテン

- *成長率低下をもたらした消費税導入
- *消費税導入で何が変わったのか
- *累進的な消費税が望ましい
- *公的債務問題解決のための改革案
- *エネルギー消費税の創設で無駄遣いを排除
- *法治国家の否定につながる解釈改憲
- *TPPに潜むISDSの大きなリスク
- *アメリカ政府は電子メールを傍受している
- *民主制度の見直しが必要
- *人間のつくった制度はいずれダメになる



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は2年ちよつとぶりで、3回目でございますが、ビル・トッテンさんに来ていただきました。前は社長をしておられました。今会長になられております。前回、事前に食事をしながらお話をしましたら、日本はこれから危なくなるので、食料を自分の畑でお作りになり、社員にも畑を借りるための補助を会社でしているという話をされてきました。今日伺いましたら、秋田のほうにおいてになって食用のウサギを購入されたんだそうです。現在、ウサギを飼育していて、これから第1回の試食をされるようでございますが、そういうふうにはわれわれも生きていかなないとダメなのかもしれません。

前はたしかそうではなかったと思いますが、

今は日本に帰化されています。アメリカが祖国であるということが嫌になったそうでございますが、今日『アングロサクソン資本主義の正体』という本を売っておりますので、まだお求めでない方はお求めいただきたいと思えます。それでは、トッテンさん、よろしくお願いたします。（拍手）

成長率低下をもたらした消費税の導入

トッテン こんにちは。トッテンでございます。今日は上着を着ておりませんが、これは会社の夏の制服です。

今日は、「本当はもつとよくなるニッポンの未来」という題で話そうと思っています。

僕は昭和44年から日本に住んでいますけれど